NPT3セミナー演習資料

【品質管理プロセス＆測定プロセス】

**プロセスの目的（SPEAK-IPA版より引用）**

＜品質管理プロレスの目的＞

品質管理の目的は、組織的及びプロジェクトレベルで製品及びサービスが顧客の要求事項を満たす事を保証するために、その品質を監視する事により顧客満足を達成する事である。

＜測定プロレスの目的＞

測定の目的は、プロセスの効率的な管理を支援するため、及び客観的に製品の品質を実証するために、開発された製品並びに組織内及びそのプロジェクト内で実行されたプロセスに関するデータを収集し、かつ分析することである。

**演習で取り上げるプラクティス（SPEAK-IPA版より引用）**

＜品質管理プロセスのベースプラクティス＞



＜測定プロセスのベースプラクティス＞



**プラクティスの実践状況**

　当該プロジェクトでは、要件定義段階で顧客の品質ニーズの引き出しを実施したところ、顧客からJIS X 0129-1：品質モデル（ISO/IEC 9126-1）の定義に基づいて、信頼性確保の要求を受けた。

　当該プロジェクトの属する組織では、従来から開発過程の各フェーズで、LOCベースで見積もり規模及び実績規模のデータ、並びにレビュー、テスト等で発見されたバグ数のデータを収集している。また、それらのデータを組織で分析して、各フェーズでの規模当りバグ検出件数の基準値を設定している。

　当該プロジェクトでは、顧客からの信頼性要求に対して、各フェーズでの規模とバグ数のデータを収集し、規模当りバグ検出件数の実績値を組織の基準値に照らして品質管理を実施している。

**検討事項**

　皆さんはアセスメントチームの一員として、品質管理プロセス及び測定プロセスの実践状況を調査した結果、上記のような状況が判明したとします。

　この状況に対し、“演習で取り上げるプラクティス”に記載した２つのプラクティスが効果的に実践されていると判断してよいでしょうか？

適切な判断を行うために、どのような点から追加の現状把握をすべきかを検討してください。

**参考情報（JIS X 0129-1より引用）**

＜信頼性とその福特性の定義＞

信頼性 指定された条件下で利用するとき、指定された達成水準を維持するソフトウェア製品の能力

成熟性 ソフトウェアに潜在する障害の結果として生じる故障を回避するソフトウェア製品の能力

障害許容性 ソフトウェアの障害部分を実行した場合、又は仕様化されたインタフェース条件に違反が発生した場合に、指定された達成水準を維持するソフトウェア能力

回復性 故障時に、指定された達成水準を再確立し、直接に影響を受けたデータを回復するソフトウェア製品の能力